

6. 軽トラック・トラック

(1) 坂道駐車時の事故

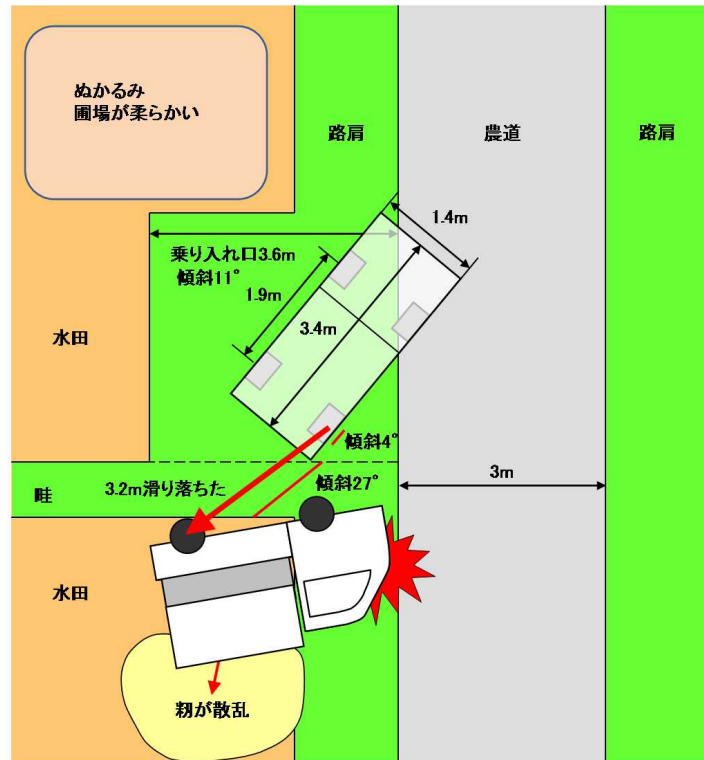
6. 軽トラック・トラック (1) 坂道駐車

43

コンバインから軽トラックのコンテナに籾を入れた時、軽トラックが坂道にあり、自然にバックして水田に転落 (平成26年9月下旬 午後2時40分頃 男性・60歳)

事故の概況

午後1時ころからコンバインで稲刈りを始め、1枚目の水田の刈り取りが終わったので、水田の乗入口（田の乗入口の長さは3.6m、農道幅は3mで合わせて6.6m、斜度は11度）に止めた軽トラックのコンテナに籾を入れた。軽トラックのアオリに乗って籾をならし、下に降りて軽トラックに乗ろうとした時、軽トラックが自然にバックをして、そのまま下の水田に転落した。運転者は、軽トラックに乗る前だったので怪我はなかった。軽トラックの運転席の窓ガラスとフロントガラスが割れ、軽トラックに積んであったコンテナの籾の一部が水田にこぼれた。



軽トラックは知り合いの土建業者にバックホーで引き上げてもらった。散らばった籾は本人と近くの人と3人で拾った。

事故原因と対策

いつもは農道に軽トラを置くのだが、長雨の影響で田んぼがぬかるんでいて、いつもは置かない昇降路に坂道駐車形で駐車した。また、いつもは弟と一緒に作業をするのだが、この日は都合が悪く一人作業となり、軽トラの駐車位置も昇降路に対して斜めであり、不安定なままだった。なお、サイドブレーキはしていたが、ギアを入れていたかは覚えていない。



(2) 乗車時の事故

6. 軽トラック・トラック (2) 乗車時

4 4

農畑から帰ろうとして、ご主人の運転する軽トラックの助手席に乗ろうとしたが、傾斜があり、十分には乗り切れず、発進したために、尻餅をつくように転落、胸椎圧迫骨折、15日間入院。
(平成26年7月中旬 午後4時頃 女性・71歳)

事故の概況

朝9時ころから荒れた畑でご主人と二人でそれぞれチップソーの刈払機で草刈りをした。以前は水田であった10aと周辺の畑の合計20aであった。午前、午後合計5時間草刈りをした。軽トラは畑に乗り入れ、帰ることを考えて、左側が13度傾くように停車していた。午後3時頃、雨がぽつぽつと降り始めたので帰ろうとして、ご主人の運転する軽トラックにサイドブレーキを右手で掴み体を乗せようとしたが、傾斜があったため、十分には乗り切れなかった。ご主人が「平らな所に出るから」と言って発進したが、左手でドアの取っ手を持って閉めようとしていた矢先だったので、尻餅をつくように転落した。

この事故の前に、本人は肩と足を痛めている。足は夜寝ていてトイレに起きようとしたとき躓き入院した。肩は50肩だといわれ、手術をして治療することも考えたが、受診した時の医師からあまり効果がないので止めた方がいいといわれ、そのままになっている。そのためか体が敏捷には動かない。ご主人はせっかちで、まどろっこしいことが嫌いなようで、今回もそんな偶然が重なってしまった結果のように考えられる。

その日は日曜日であったので、休日診療をしている病院を受診した。簡単なコルセットが処方され、休み明けに整形外科を受診するように指示された。翌日は祝日で休み、その翌日は行きつけの病院の医師が休みということで、受傷後3日後にようやく病院を受診した。レントゲンを撮り、圧迫骨折をしていることが分かり、15日間入院。新しいコルセットが処方され、入院期間中だけでなく、退院後も1ヶ月間付けていた。また、骨粗鬆症もあるということで、自分で毎日注射をしている。針は細く痛くはないが、毎日するのは大変なことである。



事故の原因と対策

事故を起こす前に、足と肩を痛めていたために、なかなか敏捷には動くことができず、軽トラックに十分に乗り切れなかった時点で車が発進してしまった。

運転するご主人が、奥さんが助手席に乗ることを確認してから発進するべきであった。コミュニケーションルールが大切な事例である。また、車を止める時点で平らなところに駐車する必要があった。

(3) その他の事故

6. 軽トラック・トラック (3) その他 - 荷縄がけでロープが切れる -

45

ロールベールを2tトラックに3個積んで、ロープを掛け締めた際に、ロープの結び目が切れて転び、後頭部を打撲した。約3ヶ月後、右手のしびれや歩行中右に移動するなどの自覚症状が出たので、再度検査したところ硬膜下血腫

(平成26年3月下旬 11時半頃 男性・65歳)

事故の概況

朝11時30分頃から、敷地内でロールベールを2t車に3個積み、塩ビ製のロープをかけて止めようとしていた。ロープを思いっきり引いて締めようとしたところ、ロープが結び目で切れて背後に転倒、後頭部を地面に強打。少しの間気絶。1人作業で周囲には人はいなかった。気がついた後、何ともないようだったので、(別の?)ロープをかけて、自宅までトラックを運転して帰ってきた。切れたロープは3~4ヶ月間使用したものであり、毎日のように用いていた。いつも同じ所を結ぶので、弱くなっていたと思われる。以前使っていたロープは5~6ヶ月間用いていた。いつも農協から購入している。

事故から6日後、頭が痛く自分で車を運転してMRIのある脳神経外科診療所を受診。MRIを受けたが、異常なしと言われた。事故後3カ月目から、右手がしびれ、歩行時に右側に寄ることを自覚したが、多忙な時期だった(1番草)ので疲れかと思っていた。約2週間後、先の診療所で再度MRI検査の結果、硬膜下に血腫のあることが判明、総合病院でその日のうちにレントゲン検査を受け、すぐに血腫をドレナージした。翌日からは症状が解消した。



トラックに積んだロールベールをロープで締めたとき、ロープが切れて、頭部を強打。当日、脳外科受診するも異常なし、3カ月後慢性硬膜下血腫

事故の原因と対策

毎日同様の作業であるが、前のロープは5~6ヶ月間用いていたので、今度のロープはまだ切れなと思い安全確認はしていなかった。現在、日常的に使う道具等の使用期限などについて、ある程度の目安的なものが出せないものだろうか。また、脆弱化すると変色するなど、研究課題としてメーカーに検討していただきたいものである。

いずれにしても、作業前のグッズ等の確認も必要である。

また、このような思いがけない事態が常に農作業現場では発生するので、ヘルメットの着用を日常化することも大切。

7. 運搬車・バイク

(1) 運搬車の走行中の事故

7. 運搬車・バイク (1) 運搬車の走行中の転落

46

運搬車のブレーキとアクセルを踏み間違えて、崖から31.5m転落、脊椎損傷。

(平成26年5月下旬 午後2時15分頃 男性・84歳)

事故の概況

午後に水稻に肥料を散布するため、肥料を運搬車に乗せエンジンをかけ、ブレーキをふむところをアクセルを踏んでしまい、運搬車が急発進。ハサ木の間を通りぬけ崖したへ転落。運搬車は崖を滑るように10m下まで転落、途中のケヤキと立ち木に引っかかって止まった。本人は運搬車前面のガラスを割って飛び出し、農道から31.5m下まで転げ落ちた。どのように転げ落ちたかは記憶にない。

事故後、足が膨れ体が動かず、運搬車が今にも倒れて落ちてくるように見えたので、大声で叫んだ。近くで草刈機で作業している人が、その声を聞きつけ駆けつけてくれ、救急車の手配をしてくれた。その後安心したのか意識がなくなった。救急車に乗ったとき意識がもどり、時計を見ると事故1時間後だった。病院でレントゲンを撮り、髄が割れていることが判明、足の骨折はなかった。脊椎の手術は2日後に行われた。

事故原因と対策

84歳という高齢であり、様々な判断を必要とする運搬車の操作は、慣れているとはいえかなり無理な年齢。

運搬車はダンプ式で荷台を上げてあった。運転席に乗り、上げてあった荷台を下げ、ブレーキを踏もうとしてアクセルを踏んでしまった。このときハンドルから手を離していたため、ハンドル操作をすることができなくなった。(運搬車は、エンジン部分と荷台部分が4輪駆動で、右足側にアクセルとブレーキ、左足側にクラッチがつき、ハンドルの近くにも固定式でアクセルが設置されている。ハンドルは丸ハンドルである。)

事故現場は、自宅の裏の農道で舗装してあり左に若干のカーブと傾斜があったため運搬車が動き、アクセルを踏んだものと考えられる。その後、運搬車に乗るのをやめた。



(2) バイクの走行中の事故

7. 運搬車・バイク (2) バイクの走行中の事故

47

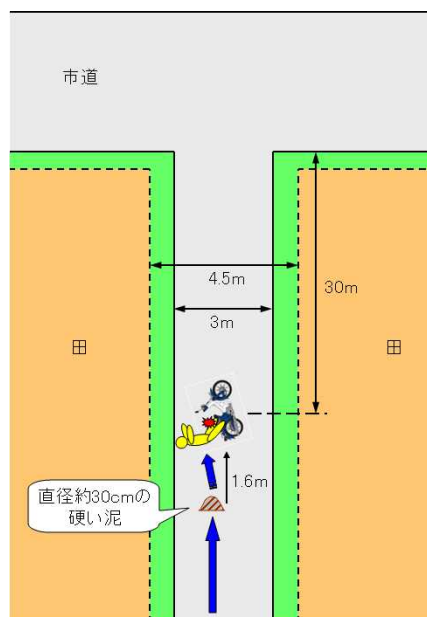
バイクで水田の見回り中、トラクターのタイヤがコンクリート道路に落とした泥に乗り上げて転倒、下腿部骨折。
(平成26年5月上旬 11時半頃 男性・77歳)

事故の概況

水田の代掻きをするため、水田への水の入り具合を確認しにバイク(50cc)で農道を走っていた。行こうとした水田は、1度代掻きを行ってあり、田植え直前に2回目の代掻きを行うため水を溜めてあった。水が直ぐに無くなる心配の水田である。

農道は舗装されているが、トラクターが落とした土塊がところどころにあった。乾いて硬く30cm大の大きなこの土塊に気づかず、乗り上げてしまい転倒した。バイクの下に足が挟まれ、左足下腿部(足の脛)を骨折した。

50mほど離れた水田で作業していた人がいたので、手を振ったが気づいてくれず、T字路にぶつかった道路は市道であり車が時々走っている。手を振ると1台目のトラックに気づかなかったが、2台目の車が気づいてくれた。ちょうど親戚の嫁さんだったので車を横に移動し、娘さんと2人で後ろ座席に乗せ、自宅まで送ってくれた。この間、時間にして15分程度。自宅から電話で救急車を要請し受診、入院4ヵ月。



事故原因と対策

77歳と高齢であるが、畑仕事、水周り、買い物に出かけるときはいつもバイクに乗って行き来していた。2年前にバイクが滑って転倒し、足の擦り傷の怪我をしたときがあった。雨の日や風の日にはバイクに乗るのは避けており、生活必需品であるが、体力的にはかなり無理をしてバイクに乗っていたものと考えられる。スピードは30km程度であった。事故後、医者からバイクを乗らないように指導を受けた。



この農道は、車がほとんど通ることがないことから、農道に泥が落ちていても、農道脇にずらすこともなく、片付けてなかった。なお、30m先にT字路があり、そこで一旦停止をして右に曲がるため、T字路に気がとられていて、泥に気がつかなかった可能性があるが、事故者はその点はわからないとのことであった。泥が一ヶ所に落ちていたわけではなく、農道に点々と落ちており、その泥をよけながら運転していたが、どういうわけか、大きな泥に気づかずに乗り上げてしまった。